

# 混沌の時代に、 国土の姿を示す

国土地理院  
河瀬 和重 院長 インタビュー

国土地理院は、2025年8月1日付で山本悟司院長が退任し、新たに河瀬和重参事官が院長に就任したことを発表した。河瀬新院長に、就任に当たっての抱負を伺った。

## 地図が好きで国土地理院へ

——御就任おめでとうございます。最初に、御経歴について少し伺いたと思います。御出身は兵庫県だそうですね。

**河瀬院長** 兵庫県芦屋市です。山も海もある土地で、自然に親しみながら育ちました。勉強は、もともと数学や物理が好きで、大学では、物性物理学を専攻しました。学部創設の理念が「科学と技術の融合」であったので、当時からそのようなマインドは醸成されたものと思います。大学院を出て、初めは電機会社に就職するか研究者になるつもりでした。でも民間会社は安定しないし、結局、研究者にも向いていないと考えて、国家公務員を選び、1993年4月、当時の建設省に入りました。

——配属先は、初めから国土地理院を希望されたのですか？

**河瀬院長** そうです。国土地理院を希望したのは、地図を見るのが好きだったことが影響していました。昔から、地図を辿りながら空想の



旅行に出かけたり、地図に様々な情報が工夫されて詰まっているのを読み解いたりして楽しんでいたので。

——国土地理院というと、やはり地図を作っている機関というイメージだったのでしょうか？

**河瀬院長** そうですね。ただ、実際に入ってみると、実にいろいろな仕事をしている機関であることが身に染みて分かって、イメージは一新されました。

## 簡易な座標換算式を解明

——入省後は、どのような業務に携わってこられたのですか？

**河瀬院長** 最初は近畿地方測量部に所属し、測量全般について一通り実地で学びました。その後はしばらく、情報系の部署で仕事をしまし

た。地図管理部地図情報室(当時)では50mメッシュの標高データ作成等に携わり、1995年に阪神・淡路大震災が発生すると、総理府(当時)に設置された地震調査推進研究本部の事務局にも出向しました。以降は、企画系を中心に、様々な部署の仕事を経験してきました。測地部以外は全ての部に行っていると思います。

——河瀬さんは、経緯度と平面直角座標との間の座標換算に関する簡明な計算式を明らかにされたことでも知られていますが、当該論文を発表されたのも、企画部におられた時のことでしょうか？

河瀬院長 ええ、測量指導課長を務めていた頃です。理科年表に掲載されている子午線弧長の計算式があまりに複雑なので、もっと簡単な計算方法がないだろうかということで、学生時代に勉強した物理のための数学を応用して導出しました。2011年の論文で示した簡易な計算式は、この子午線弧長の計算式を基に取りまとめたもので、2013年度から公共測量における作業規程の準則に採用されています。

以降は、企画調整課長、測地観測センター長、基本図情報部長、企画部長、参事官を務めました。

## 国土地理院の3つのミッション

——入省から32年間に及ぶ勤務の末、本年8月に国土地理院のトップに就任されたわけですが、改めて、院長としての意気込みを伺いたいと思います。

河瀬院長 日本を取り巻く情勢が混沌とするなか、「国土を測る・描く・守る・伝える」という役割を担ってきた国土地理院の舵取りを任されることとなり、非常に身の引き締まる思いがしています。

——院長は、職員に向けた就任挨拶のなかで、国土地理院のミッションを改めて策定する意向を示されました。飛躍のための“原点回帰”の決意を感じました。

河瀬院長 挨拶では、現在、国土交通省で進められている「国土交通省CX」という組織改革プロジェクトにおいて「MVV(ミッション、ビジョン、バリュー)」の策定が検討されていることを紹介し、国土地理院では「国土を測る・描く・守る・伝える」の4本柱や「技術・広報・教育(G・K・K)」といったバリュー(行動指針、行動基準)は示してきたものの、やはりこれらに先立つミッションを策定することが課題だと話しました。

その上で、国土地理院のミッションの素案として、①我が国国土の地政学的な完全掌握、②PNT(Positioning, Navigation, Timing)に係る技術基準の維持管理、③国土情報基盤の整備・更新・共有、の3つを提起しました。

## 国境離島等を含めた国土の状況把握の強化

——明快なミッションだと思います。その3つのミッションに沿って、国土地理院が現在直面している課題を伺いたいと思います。

まず、国土の地政学的な掌握をめぐっては、どのようなことが課題となっているのでしょうか。

河瀬院長 我が国の国土の範囲を正確に把握することは、国土地理院の存在意義といっても過言ではない第一義的なミッションです。とりわけ、国内外の情勢が混沌とするなか、日本の国土がどこからどこまでに及ぶのかを地図上に明確に表現し、国内外に主張することが、かつてなく重要になっています。

ポイントとなる国境離島については、5年おきに空中写真を撮影して把握に努めていますが、更に基準点測量や重力測量による国家座標の

維持・管理を土台としたリアルタイムな状況把握の実現に向けて、予算及び人員等の確保を進めます。

## 準天頂衛星7機体制の運用システム整備

——2つ目に、PNTの技術基準をめぐってはどのような課題があるのでしょうか。

**河瀬院長** 地殻変動による位置の変化をリアルタイムに把握し、地図に合わせるために、GEONET等の測位システムの高度化や4次元国家座標の構築が必要です。

さらに、PNTサービスを他国に依存せず自律的に展開できるようにするための体制づくりが求められています。準天頂衛星システムは、衛星の7機体制の確立に目処が付き、ハードウェア的には整いつつあります。今後は、ソフトウェア面の整備が必要です。とりわけ、位置情報の誤差の原因となる衛星の軌道位置や時計のずれを改善し、衛星測位サービスの測位精度向上を図ることを、JAXAと協力して目指しています。



## 国土情報基盤の整備に企業の協力を

——3つ目の国土情報基盤の整備・更新・共有についてはいかがですか。

**河瀬院長** 昨年の夏に国土情報基盤整備促進議員連盟（会長：新藤義孝衆議院議員）を設けていただいたことも踏まえ、官民の幅広い協力によって基盤地図情報及び電子国土基本図の整備・活用を進めていきたいと考えています。

特に、基盤地図情報の広範な活用を基に電子国土基本図の更新・3次元化を効率的に進め、デジタルツインの構築に向けて活用を広げていくために、より多くの企業に協力して欲しいと思っています。2007年に施行された地理空間情報活用推進基本法では、第17条で地図関連業務における基盤地図情報の相互活用を国及び地方公共団体に呼びかけるとともに、第6条では事業者に対して良質な地理空間情報の提供や地理空間情報の活用推進に関する施策への協力を求めています。公共測量の成果を利用して効率的に様々なサービスを提供し、もって地理空間情報の普及・啓発に寄与することは、事業者にとっても好ましいサイクルでしょう。

## 測量士・測量士補の資格基準の明確化

——測量の担い手づくりをめぐっては、今年4月に施行された改正測量法に基づいて、測量士・測量士補の資格の在り方の見直しに着手されるそうですね。

**河瀬院長** はい。現在、測量士・測量士補の資格を取得するには、文部科学大臣などの認定を受けた大学や専門の養成施設を卒業・修了したり、国家試験に合格したりするルートがありますが、それらを経てきた資格者がみんな等しいレベルの知識や技能を身につけているかに問

題意識を持っています。測量士・測量士補に本当に必要な知識や技術の基準というものを明確化するための議論を始めたいと考えています。

資格制度の運用についても、測量行政懇談会の下にある測量資格制度検討部会で行っている現在のかたちを変えて、独立した会議体を設立する方向で検討を進めていきたいと思っています。

## 幅広い分野の人材が活躍できる開かれた組織へ

——国土地理院をどういう組織にしていきたいですか。

**河瀬院長** 測量という分野は、単純な一つの専攻では解決できません。いろんなバックグラウンドを持った人材が集って、いろんな知識、経験、能力を遺憾なく発揮できるような環境が必要だと思っています。国土地理院というと、特定の狭い分野の専門家の集まりといったイメージがあるかもしれませんが、むしろ国土に関わる幅広い仕事を手掛け、興味があればどんな分野の人でも貢献できる——そうした開かれた組織でありたい。そのために、院内でも様々な視点を持ち寄って気軽に議論ができるような気風をもっと根付かせたいですね。

——最後に、当協会に対する御意見や御要望などがあれば、お伺いしたいと思います。

**河瀬院長** やはり、地理空間情報活用推進基本法の理念を広く普及・啓発するとともに、安全・安心で無駄のない社会の実現に向けて国や地方公共団体を技術的に後押しする役割を更に推し進めていただきたいと思います。基本法理念の普及・啓発においては、国土地理院より企業の皆さんの方が説得力がある場合もありますし、活用推進では、地理空間情報の



プロフェSSIONALによる貢献が圧倒的に不足しています。貴協会の更なる御尽力をお願いいたします。

また、直近の事案としては、公共測量作業規程の準則のアップデートについて、御意見をいただきたいと思っております。

引き続き、よろしく願いいたします。

——承知いたしました。

本日は、ありがとうございました。

## 河瀬 和重 (かわせ かずしげ) 氏略歴

昭和42年5月生 兵庫県出身  
 大阪大学大学院基礎工学研究科博士  
 後期課程物理系専攻 中退  
 平成5年4月 建設省入省  
 科学技術庁研究開発局地震調査研究  
 課、土地・水資源局国土調査課、国  
 土地理院企画部、同地理空間情報部、  
 同応用地理部、同地理地殻活動研究  
 センターなどを経て



平成30年10月 国土交通省国土地理院測地観測センター長  
 令和3年4月 国土交通省国土地理院基本図情報部長  
 令和4年6月 国土交通省国土地理院企画部長(内閣官房併任)  
 令和6年7月 国土交通省国土地理院参事官  
 令和7年8月 国土交通省国土地理院長